

～平均寿命142歳時代～

"人生四毛作"が当たり前になる未来

2124年、平均寿命は142.6歳に達し、医療技術の進歩により人類は長寿時代へ。この社会的革命がもたらす人生設計の機会と課題を分析します。



人生四毛作：新たな人生設計の枠組み

学び期 (0-35歳)

従来の幼年～青年期が大幅に延長。基礎教育から専門知識習得、複数の学位取得まで、人生の基盤となる学習に集中する時期です。

1

創造期 (36-70歳)

壮年期として、培った知識と経験を活かし、社会に価値を創造する時期。起業、芸術創作、技術革新など、個人の能力を最大限発揮します。

2

貢献期 (71-100歳)

中年～老年期として、社会への恩返しと次世代への知識継承に注力。メンタ―シップ、社会活動、慈善事業などに従事する時期です。

3

変身期 (101-142歳)

人生の最終段階として、新たな自分を再定義する革命的な時期。これまでの常識を覆し、全く新しい挑戦に取り組む時代です。

4

この四毛作システムにより、人々は複数回の人生を体験し、様々な分野で専門性を発揮することが可能になります。一つの職業や役割に縛られることなく、人生の各段階で異なる価値を社会に提供できるのです。

新たな社会問題：長寿うつと存在疲労症候群

長寿うつの症状



140年という長い人生に対する漠然とした不安や、目標設定の困難さから生じる精神的な病気です。「まだ80年も生きなければならない」という圧迫感が主な原因とされています。

存在疲労症候群



長期間の存在による疲労感や、自分の存在意義への疑問から生じる症候群です。特に100歳を超えた人々に多く見られ、「なぜ生き続けるのか」という根本的な問いに直面します。

治療とサポート



専門のカウンセリングセンターが設立され、長期的な人生設計の支援や、各人生段階での目標設定をサポートしています。定期的な「人生リセット」セッションも提供されています。

これらの新しい精神的な課題は、超長寿社会における重要な課題となっています。医療技術の進歩により身体的な健康は維持できても、精神的な健康を長期間保つことの困難さが明らかになっています。



変身期における新たな可能性

100歳以降の「変身期」では、従来の社会通念を覆す現象が数多く見られます。80代での起業は珍しくなく、豊富な経験と人脈を活かした革新的なビジネスが次々と生まれています。100歳での恋愛や再婚も社会的に受け入れられ、人生の最後の章で新たな愛を見つける人々が増加しています。

特に注目すべきは、120歳での大学入学や研究職への転身です。これまでの人生で蓄積した知識と、年齢を重ねることによって得られる独特の視点が組み合わせることで、若い世代では思いつかない革新的な発見や理論が生まれています。学問の世界では、「高齢者の知恵」が新たな研究分野として確立されつつあります。

